



学校だより

横浜市立 桂台 小学校
学校長 今井 健二

横浜市栄区桂台南1-1-1

令和8年度 10月号

学校 HP <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsuradai/index.cfm>



TEL

ま 待つことも、まな 学ぶこと

校長 今井 健二

朝、登校してくる子どもたちの姿に、季節の移り変わりを感じます。夏の間は汗をかきながら登校していた子どもたちも、この時季になると少しさわやかな表情で歩いてきます。

昇降口の前には、子どもたちのいろいろな「待つ姿」がみられます。開門を待ちながら友達と話している子。一人で静かに待っている子。そして、後から来る友達を待っている子。友達の姿を見つけると、「おはよう」と声をかけ、一緒に昇降口へ向かっていきます。

考えてみると、学校生活には「待つ」という時間がたくさんあります。

友達が話し終わるのを待つ。友達が準備を終えるのを待つ。自分の順番を待つ。すぐに答えを教えてもらうのではなく、自分で考え、答えを探す。うまくいかなかったとき、もう一度挑戦する。そして、友達がもう一度挑戦する姿を見守る。

大人からすると「早くできるようになってほしい」と思うことがあります。子どもが困っていると、つい手を差し伸べたくなります。授業でも、なかなか答えが出ない子がいると、すぐにヒントを出したくなる場合があります。

もちろん、必要なときに支えることは大切ですが、すぐに答えを渡すのではなく、子ども自身が考え、試し、答えを探す時間を保障することも大切です。

「もう少し考えてみようか」

「次はどうしたらうまくいきそう？」

「友達のやり方を見てみようか」

そんな言葉をかけながら、子ども自身が答えにたどり着くまで待つ。待つことは何もしないことではなく、その子の様子を見ながら必要な時間を保証することです。

子ども同士でも同じです。友達の話を最後まで聞く。自分とは違う考えが出て、すぐに否定せず「どうしてそう考えたのだろう」と考えてみる。うまく言葉にできない友達を急かさずに待つ。

相手を待つことは、相手の時間を大切にすることでもあります。そうした時間の中に、子どもたちの学びがあります。

10月を迎え、学校生活も後半に入ります。これから、子どもたちが自分で考え、選び、挑戦する場面が増えていきます。私たち大人も、「早くできるようにする」ことだけを求めるのではなく、ときには立ち止まり、考え、試行錯誤するための時間を大切にしていきたいと思えます。

秋の深まりとともに、一人一人の子どもたちの学びも、ゆっくりと、そして確かに深まっていくことを願っています。